

G 8 学術会議出席報告

平成 19 年 4 月 1 1 日

副会長 土居範久

1. 会議概要

1) 名称

(和文) G 8 学術会議

(英文) Meeting of the Presidents of the Academies of Sciences of the
G8 + 5 countries

2) 会期 2007 年 3 月 15 日 ~ 16 日(2 日間)

3) 会議出席者

金澤一郎会長、土居範久副会長、谷口隆司局長ほか

4) 会議開催地

ハレ(Halle (Saale), Germany),

The German Academy of Sciences Leopoldina

5) 参加状況(参加国数、参加者数、日本人参加者)

参加国 13 ヶ国 参加者数計 36 名(日本人参加者 5 名)

6) 会議内容

日程・議題

3 月 15 日(木)

- Welcome and introduction
- G8 – Perspectives and Expectations of the Federal Government
- Energy Efficiency
- Climate change and protection
- Intellectual property (Promoting innovation, protecting innovation)
- Building science, technology and innovative capacity in Africa
- Discussion groups

3 月 16 日(金)

- Report by the discussion group “Sustainability, energy efficiency and climate”
- Report by the discussion group “The promotion and protection of innovation”
- Closing remarks

審議内容・成果等

- ・ 全体として、主催アカデミーの尽力及び各国アカデミーの協力により活発な議論が行われた。
- ・ 声明案はグループセッション及び全体議論における数回の推敲の後出席者全員が同意するドラフトが作成された。帰国後各アカデミーより意見があればさらに調整することとなった。
- ・ ドイツ外務省 Kruse 公使参事官 (legationsrat) が冒頭でサミットの状況を説明した後、会議を傍聴した。
- ・ 日本からは、金澤会長が課題別委員会レポート「地球温暖化とエネルギー - 持続可能な社会に向けた衡平な負担 - 」の概要を紹介したほか、他国から日本のイノベーション 25 についての関心が示されたことを受け、私よりイノベーション 25 の状況を紹介する発言を行った。
- ・ 最後に、金澤会長が、来年の G 8 学術会議日本開催を宣言した。

2. 会議における審議内容

G 8 学術会議は、G 8 サミット参加各国の学術会議 (アカデミー) がサミット参加各国の指導者に向けて政策提言を行うことを目的として開催される科学アカデミー会合である。

2005 年英国グレインイーグルスサミット開催年に発足して以降、毎年共同声明を取りまとめ、サミットに世界同日付で公表され各国指導者に提出される。日本でも、これまで日本学術会議会長から総理大臣に手交している。

今回のドイツ会合では、テーマに関する科学者の講演のほか、事前に送付されていた声明案について修文含めた実質的な議論も行われた。また、サミットに合わせ参加国にメキシコが加わり、13 カ国 (G 8 + 5) となった。

15 日 (木) 午前

Welcome and Introduction

- ・ 主催者である ter Meulen レオポルディーナ会長より挨拶の後、レオポルディーナの歴史及び活動状況の紹介。出席者全員の簡単な自己紹介。

G8 - 連邦政府の見通しと期待

- ・ ter Meulen 会長より、「今日はドイツ外務省から Kruse 氏に来ていただいた。プレ

ゼンの後、よければそのまま残っていただき、科学者の考えを聞いてもらう機会としたいと考えている」との提案があり、一同了承。

- ・ Kruse 氏より G8 サミットの状況について説明の後、質疑応答。

エネルギー効率化、気候変動及び保全

<エネルギー効率化>

- ・ Ruhr 大学（ドイツ）の Hermann-Josef Wagner 教授より、エネルギー効率化について講演。
- ・ 中国 Chinese Academy of Science の Jinghai Li 教授（IAC エネルギーパネルメンバー）より、IAC エネルギーパネルの報告書概要について報告。

<気候変動及び保全>

- ・ Potsdam Institute for Climate Impact Research の Hans-Joachim Schellnhuber 教授（首相の科学顧問）より、気候変動及び保全について講演。
- ・ 金澤会長より、課題別委員会報告「地球温暖化とエネルギー - 持続可能な社会に向けた衡平な負担 - 」の概要を報告。

以上の講演、報告の後質疑及び意見交換が行われたほか、フランスアカデミーより、最近まとめた気候変動についてのレポートのポイントが紹介された。

15日（木）午後

知的財産権とイノベーション

- ・ 英国王立協会 Bernie Jones 氏より、イノベーションの推進と保護について報告。米国及び英国のアカデミーは既にイノベーションに関するレポートを公表しているほか、日本は現在イノベーション25に取り組んでいるとの報告があった。
- ・ Ludwig Maximilians 大学 Dietmar Harhoff 教授より、イノベーションの推進と保護について講演。知的財産権とオープンネスのバランスを取ることの重要性が強調された。

以上の報告、講演の後、質疑及び意見交換が行われた。

- ・ アカデミーにできることは、各国の抱える問題に対し貢献すること、各国のイノベーションを促進する方法を見つけること、科学的な信頼を保証することにより資金を得やすくすること（資金は公共機関に限らず民間でも個人でもよい）との意見があった。
- ・ 途上国では、資金だけでなく、企業行動を変えていくことも重要との指摘があった。

- ・ 科学的な信頼を保証するという点に関連し、アカデミーはパテントに関する研究もできるとの意見があった。
- ・ 日本のイノベーション25は、高市大臣が中心になって進めているもので、黒川前会長も尽力しているとの紹介を行った。
- ・ 知的財産権は制度等が国により異なるので、アカデミーとしては広い視点からの提言にすべきとの意見があった。

アフリカ

- ・ Hassan TWAS 事務局長からの報告があった。
- ・ 大学の研究を向上させるためには、資金も重要だが、領域を限定し魅力ある環境を作り優れた人材を集めることも重要、との指摘があった。
- ・ 金澤会長より、日本における野口英世賞の創設が紹介された。

3つのグループ（気候変動、イノベーション、アフリカ）に分かれての議論

1) 気候変動について

- ・ G8 アカデミーでは、過去2年間気候変動に関連するテーマで共同声明を出しており（第1回：気候変動への世界的対応、第2回：エネルギーの持続可能性と安全保障）今年は今までの経緯を踏まえエネルギー効率性に焦点をおくべきとの意見があった。
- ・ 基礎研究の重要性にも触れるべきとの提案があった。
- ・ 結論部分に、社会科学者の視点を入れるべきとの意見があった。
- ・ 声明では、エネルギー効率化についての課題及び解決策のポートフォリオを示し、G8 リーダーに向けて提言する。それを踏まえ各国が自国のロードマップを作れるか、ということが重要。ロードマップは研究課題によって方向づけられるべき、との意見があった。
- ・ 科学者コミュニティとして、原子力発電の将来についての提言を入れるべきとの意見があった。

2) イノベーション

- ・ 共同声明ドラフトについて用語の適切な使い方を含め議論が行われた。
- ・ イノベーションの促進と関連し例えば遺伝資源の保護や医薬品特許の問題などの課題について検討と配慮が必要ではないかとの提案があったが、現時点で発展途上国に直接関係がない事項は今回は入れないこととなった。

3) アフリカ

- ・ 議論の後、アフリカ関連アカデミーが共同で、G8 + 5 に向け声明を取りまとめることとなった。

16日(金)

ドラフト改訂版について全体での議論

- ・ 昨日のグループディスカッションを踏まえ各グループから修正の理由を含め改訂版が提示され、改訂版に基づき議論が行われた。

公表日

- ・ ter Meulen 会長より「G8 リーダーに対してはサミット開催に向け十分な余裕を持って渡す必要がある。できる限り4月中旬までに公表したい。」との発言があった。

次回会合

- ・ 金澤会長より来年は日本で開催する旨宣言され閉会。